バスケットボール選手の心理的適性について
－所属カテゴリー、差異、競技レベルからみた競技意欲（TSMI）の特徴－

〇 吉岡洋二 堀本 宏 岡沢 祥訓 新井 喜生 鳥居 喜宏
（名古屋経済大学）（中央女子大学）（名古屋女子大学）（中央女子大学）
（名古屋市立短期大学）（上越教育大学）

バスケットボール、所属カテゴリー、競技意欲

目的
バスケットボールの勝敗を規定するものとして、多くの要因が考えられるが、我々は特に心理的適性に検討を加えるためにSMIを用いて、高校生（吉沢ら、1984）、大学生（吉沢ら、1984）、社会人（大場ら、1985）の各々について、競技レベル、性差の観点から分析を加えた。しかし、高校生、大学生、社会人という所属カテゴリーによる差を検討しておく必要があると思われるので、本研究に際しては上記のレポートのデータを合わせて所属カテゴリー×競技レベル×性差の三要素の分散分析を行い、検討した。

方法
1. 調査対象
   ◎社会人：high level 昭和57年度日本リーグ、上位8チーム（男女各8チーム、計16チーム）：average level 愛知県内の社会人クラブチーム（男女各8チーム、計16チーム）
   ◎大学：high level 昭和57年度大学選抜大会上位8チーム（男女各8チーム、計16チーム）：average level 愛知県内の大学クラブチーム（男女各8チーム、計16チーム）
   ◎高校生：高2・3年 15校、計30校

2. 調査内容
   松田らによって作成された、体験スポーツ競技動機検査（TSMI）を使用した。

3. 調査時期
   1985年4月7月かけて、郵送法による回答をもとめた。調査依頼したチーム数については、上記した通りであるが、調査をしたデータは、不備のあるものを除いた表1に示した人数である。

結果
1. 所属カテゴリーについて
三要素分析法の結果、所属カテゴリーの主効果が有意であったのは、目標への挑戦、困難の克服、勝利志向性、失敗不消、緊張性不安、冷静な判断、精神的強さ、コーチ受容、関心、不動制、計画性、努力への因の帰属の尺度であった。競技における価値観、練習意欲、コーチ不適応などには所属カテゴリーによる違いはみられなかった。有意差のみられた尺度では、高校生よりも大学生、大学生よりも社会人が優れた適性を示した。

2. 性差について
三要素分析法の結果、性差の主効果が有意であったのは、失敗不消、緊張性不安、冷静な判断、精神的強さ、コーチ受容、目標不適応、関心、不動制、計画性、努力への因の帰属の尺度であった。競技における価値観、練習意欲、コーチ不適応などには所属カテゴリーによる違いはみられなかった。有意差のみられた尺度では、高校生よりも大学生、大学生よりも社会人が優れた適性を示した。

3. 競技レベルについて
三要素分析法の結果、競技レベルの主効果が有意であったのは、目標への挑戦、困難の克服、勝利志向性、失敗不消、緊張性不安、冷静な判断、精神的強さ、コーチ受容、関心、不動制、計画性、努力への因の帰属の尺度であった。この結果、競技レベルの高い者はpositive的な側面、negative的な側面とも優れた適性を示した。